



松坂屋美術館エントランス

アートのある暮らしを提案

美術館・ミュージアム

古典美術から現代アートまで、国内外の人気作家などをより気軽に身近にお楽しみいただけるよう、当社百貨店主要店舗内に設置した美術館、ミュージアムや多目的ホールにおいて、絵画、工芸、写真、版画など、幅広い分野の話題性あふれる展覧会や各種イベントを随時開催し、ご来店のお客様に心豊かな生活のご提案と地域への文化貢献をはかっています。



岩合 光昭<ギリシャ・ミコノス島>2012年
©Mitsuaki Iwago



清川 あさみ<もう一つの場所「蝶類」>
©Asami Kiyokawa

2012年度の主な開催実績

- 京都・清水寺成就院奉納襖絵風の画家 中島潔が描く「生命の無常と輝き」展 (松坂屋美術館)
- 歌川国芳展
～奇想の浮世絵師による江戸案内～ (大丸神戸店)
- 平山郁夫展 次世代へのメッセージ (大丸京都店)
- マルク・シャガール展 ～油彩、版画、タピスリー～ (松坂屋美術館)
- 再興第97回 院展 (大丸心齋橋店、松坂屋美術館)

2013年度の主な開催予定

- 岩合光昭写真展「ねこ歩き」 (大丸心齋橋店)
- 清川あさみ 美女採集 (大丸梅田店)
- 羽海野チカ原画展 ～ハチミツとライオン～ (大丸京都店)
- トミカ・プラレールフェスティバル (大丸神戸店)
- 観阿弥生誕680年 世阿弥生誕650年記念 観世宗家展 (松坂屋美術館)
- 再興第98回 院展 (大丸心齋橋店、松坂屋美術館)



重要文化財
染分縷子地御所車花鳥文様織箔小袖(江戸時代初期)

国の重要文化財を含む 貴重な染織品の数々を所蔵

当社が2011年に設立した「一般財団法人 J.フロント リテイリング史料館」では、当社グループが所蔵する文化遺産を未来に継承するとともに、学術文化に寄与することを目的として、国の重要文化財指定を受けた江戸時代の小袖など、貴重な染織品1,300余点の維持管理、公開・展示運営を行っています。

2011年度には、これらの衣装を一同に展示する「松坂屋コレクション」を松坂屋美術館にて開催したほか、国立能楽堂での「能装飾面展」に120点、京都文化博物館での「京の小袖」特別展に77点の史料の貸し出しを行い、大きな反響を呼びました。

また、2012年度は、松坂屋美術館を含む全国4か所の有名美術館で「沖縄復帰40周年記念 紅型BINGATA琉球王朝のいろとかたち」を開催し、当社グループ所蔵の琉球染衣装を中心とした松坂屋コレクション計45点が展示されました。



光と色彩の天井



フレスコ画の天井



レリーフ天井



本館1階エレベータホール



ステンドグラス時計



孔雀のレリーフ

建築家W.M.ヴォーリスによる アール・デコの世界

1717年(享保2年)に創業した大丸呉服店が、現在の心齋橋店の地にショーウィンドウのある洋風の店舗を構えたのは1914年(大正3年)。それから数年経った1918年(大正7年)10月、当時大阪でも珍しく個性的なゴシック様式の木骨4階建レンガ造りの百貨店が誕生しました。それが、W. M. ヴォーリス(1880-1964年)が大丸の建築を手掛けた最初でしたが、わずか1年4か月後には惜しくも焼失。現在の心齋橋店の建物は、4期に分けて計画的に建築が進められました。第1期工事は1922年(大正11年)に心齋橋筋側の南半分、第2期工事で同じく北半分を1925年(大正14年)、そして1932年(昭和7年)の第3期、翌1933年(昭和8年)の第4期増築工事で御堂筋側を完成し、地上7階のネオ・ゴシック様式の百貨店が出現することになりました。

建物の中間層は重厚感のあるスクラッチタイル張り、これを挟むように1階は花崗岩張り、最上階の外壁はテラコッタ

で緻密にデザインされています。大丸のシンボルとなっている孔雀のレリーフが施された玄関をくぐり抜けて店内に入ると、天井のフレスコ画、中央のエレベータホール上部のステンドグラス時計など華やかなディテールが次々と現れてきます。それらはすべて、幾何学模様や抽象化された花や樹木、雪や鉱物の結晶など、ひとつのトーンで統一されたアール・デコの世界です。

地域の店舗ごとに特色があるのが本来の百貨店。モノやサービスとともに、特別な時間・空間をお客様に提供する、心齋橋店としてのひとつのアプローチがここにあります。



大丸心齋橋店



イソップ寓話のステンドグラス



本館中2階(メザニン)